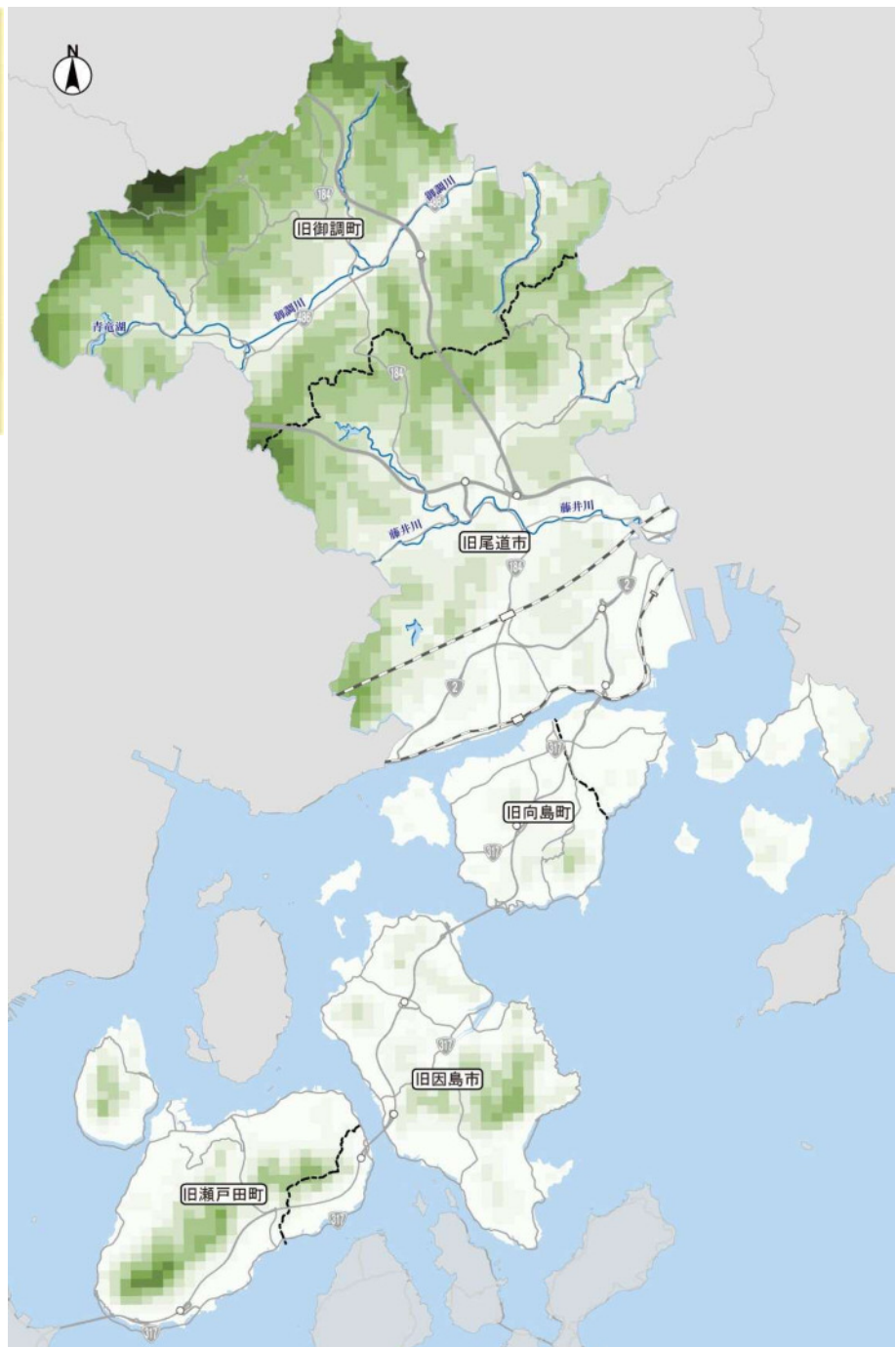


1. 地勢

尾道市は、広島県東部に位置し、東は福山市、西は三原市、そして北は府中市、世羅町に隣接しています。明治 31 年の市制施行以降、周辺市町村との合併を経て、緑豊かな北部丘陵地域から尾道水道周辺地域を経て独特の多島美を有する瀬戸内海地域に至る、多彩な資源を有するまちとなっています。

市域面積は 285.11 平方キロメートルを有し、地勢は大半が山地で、島しょ部は概して急峻で平地に乏しく、平地は尾道水道・御調川沿い・島しょ部の海岸沿いに形成されています。

以降、平成 17 年、18 年の合併前の5つの旧市町（旧尾道市、旧御調町、旧向島町、旧因島市、旧瀬戸田町）の区分により、地域概況を整理します。



(資料) 国土交通省「国土数値情報」

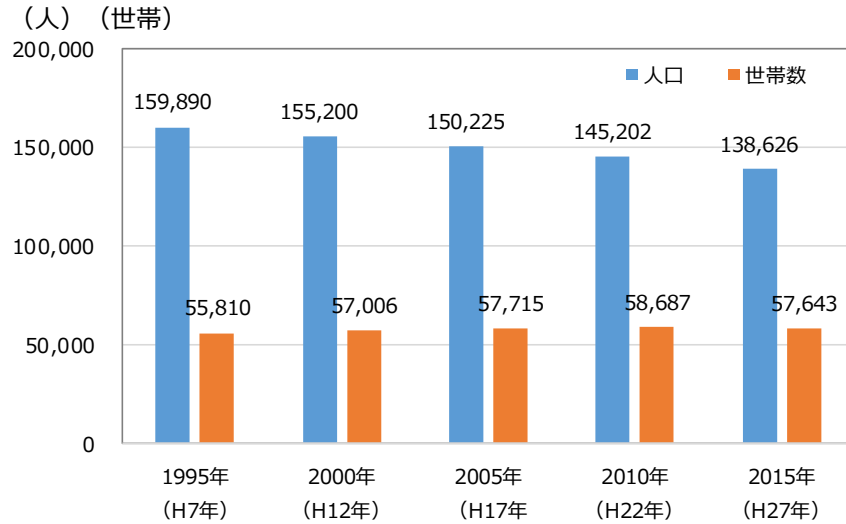
▲ 尾道市の位置・地勢

2. 人口・世帯の状況

1) 人口・世帯の推移

① 人口・世帯

本市の人口は減少傾向にあり、平成 27 年の国勢調査では 138,626 人となっています。世帯数は、平成 22 年まで増加傾向にありましたが、それ以降は減少傾向に転じ、平成 27 年の国勢調査では 57,643 世帯となっています。

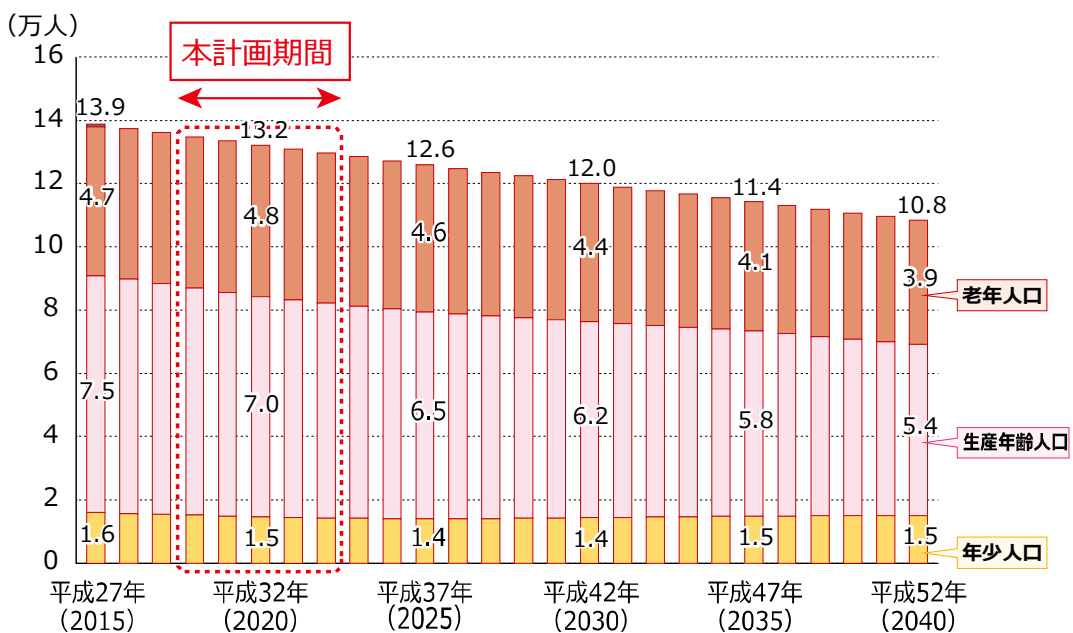


(資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」

▲ 尾道市の人口と世帯数の推移

② 将来目標人口

「尾道市総合計画」では本市の将来目標人口を設定しており、2040 年（平成 52 年）に全人口が 10.8 万人（年少人口 1.5 万人、生産年齢人口 5.4 万人、老年人口 3.9 万人）とすることを目標としています。



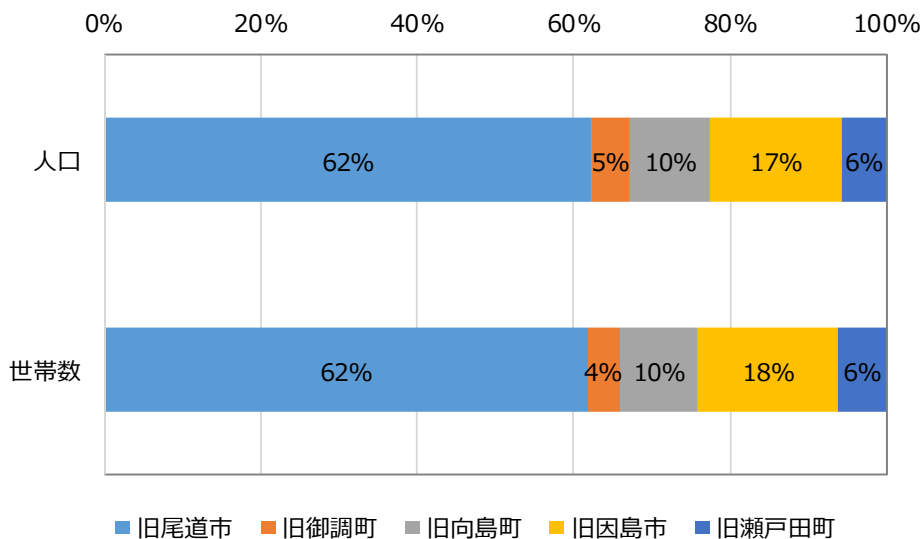
(資料) 尾道市「平成 29 年 3 月 尾道市総合計画」

▲ 将来目標人口

2) 地域別の人口・世帯

① 地域別割合

本市の旧市町での人口割合は、旧尾道市が 62%で最も多く、次いで旧因島市が 17%、旧向島町が 10%、旧瀬戸田町が 6%、旧御調町が 5%となっており、旧尾道市に半数以上の方が集中しています。また、世帯数の旧市町割合もほぼ同じ傾向となっています。



(資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」

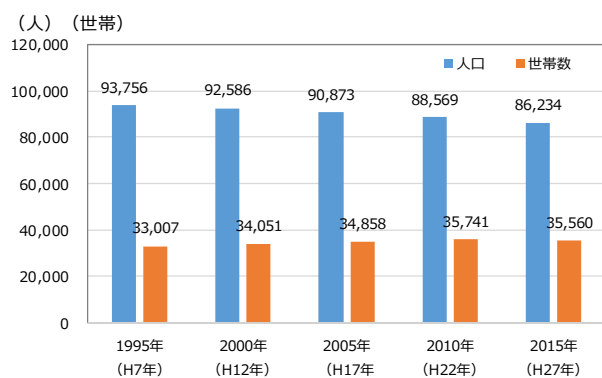
▲ 尾道市の人口と世帯数の地域別割合



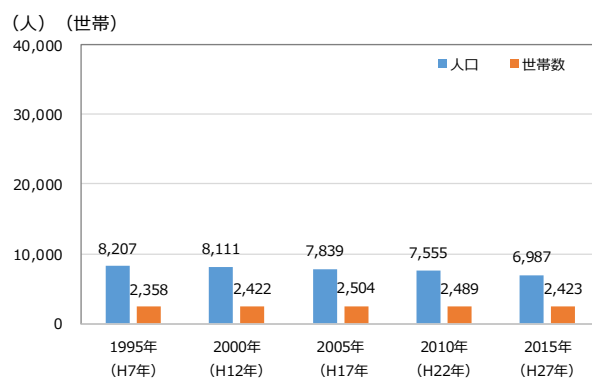
▲ 市町村合併前の尾道市

② 地域別の推移

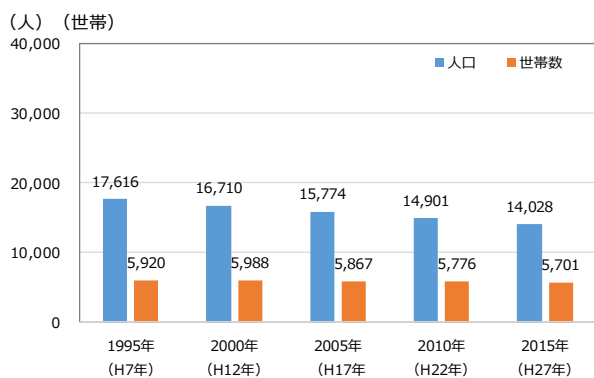
a. 旧尾道市



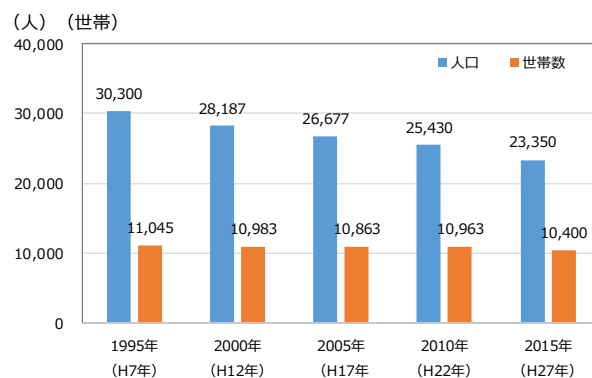
b. 旧御調町



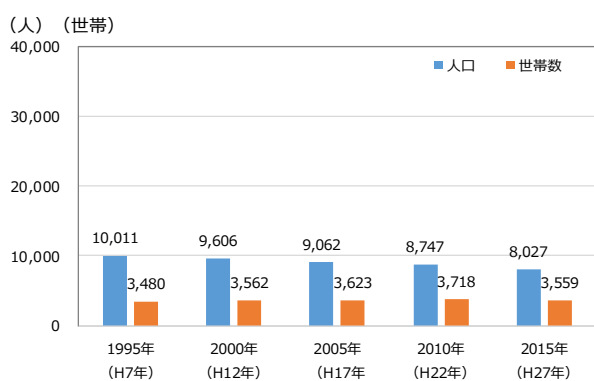
c. 旧向島町



d. 旧因島市



e. 旧瀬戸田町



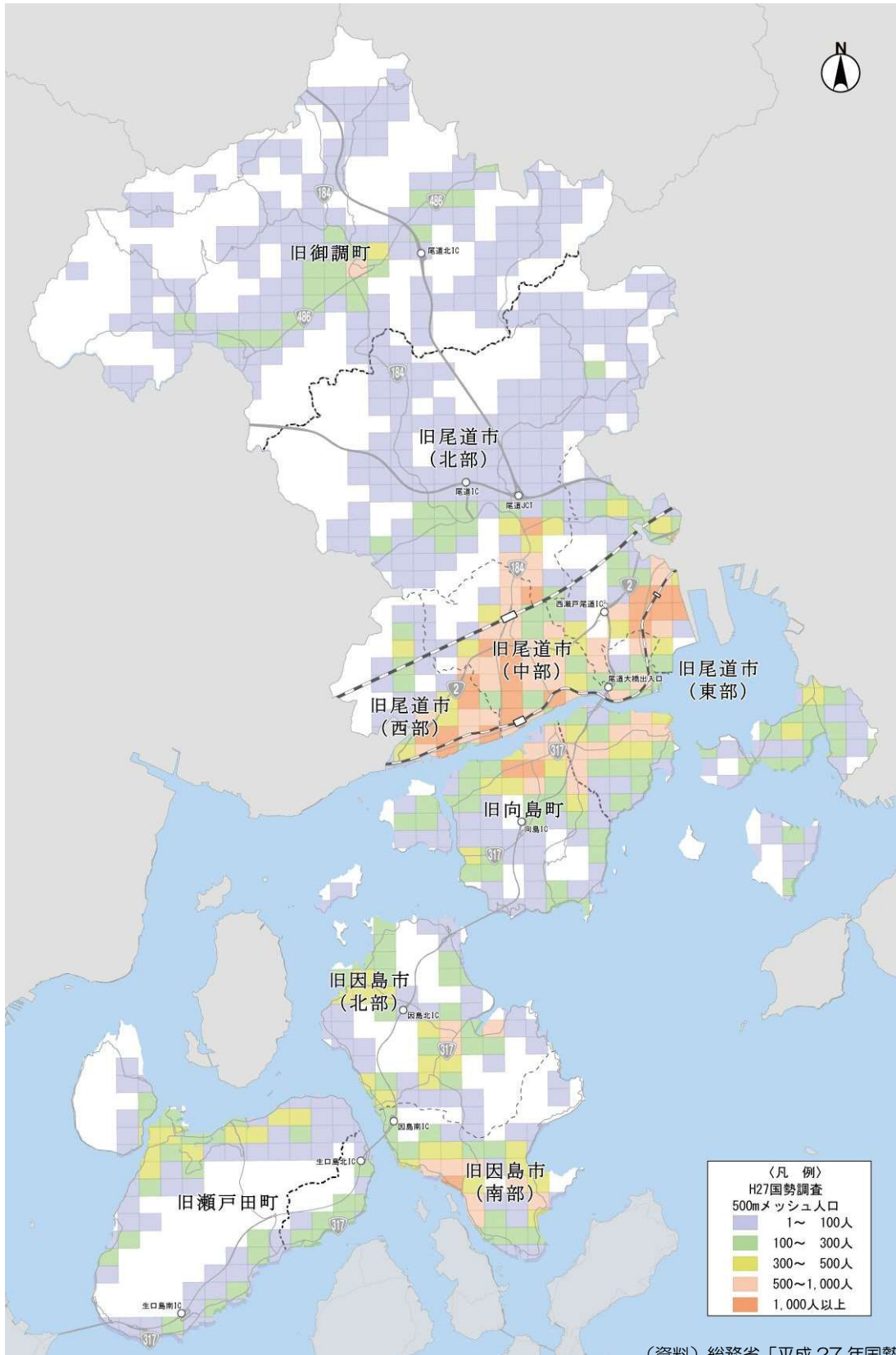
(資料) 総務省「平成27年国勢調査」

▲ 地域別の人口と世帯数の推移

③ 人口分布

500mメッシュによる人口分布をみると、旧尾道市中部・東部・西部や旧向島町の尾道水道周辺に集中しています。

旧御調町、旧瀬戸田町では、それぞれの地域で生活関連施設等が多く立地している区域に集中し、旧因島市には人口が集中する区域が点在しています。



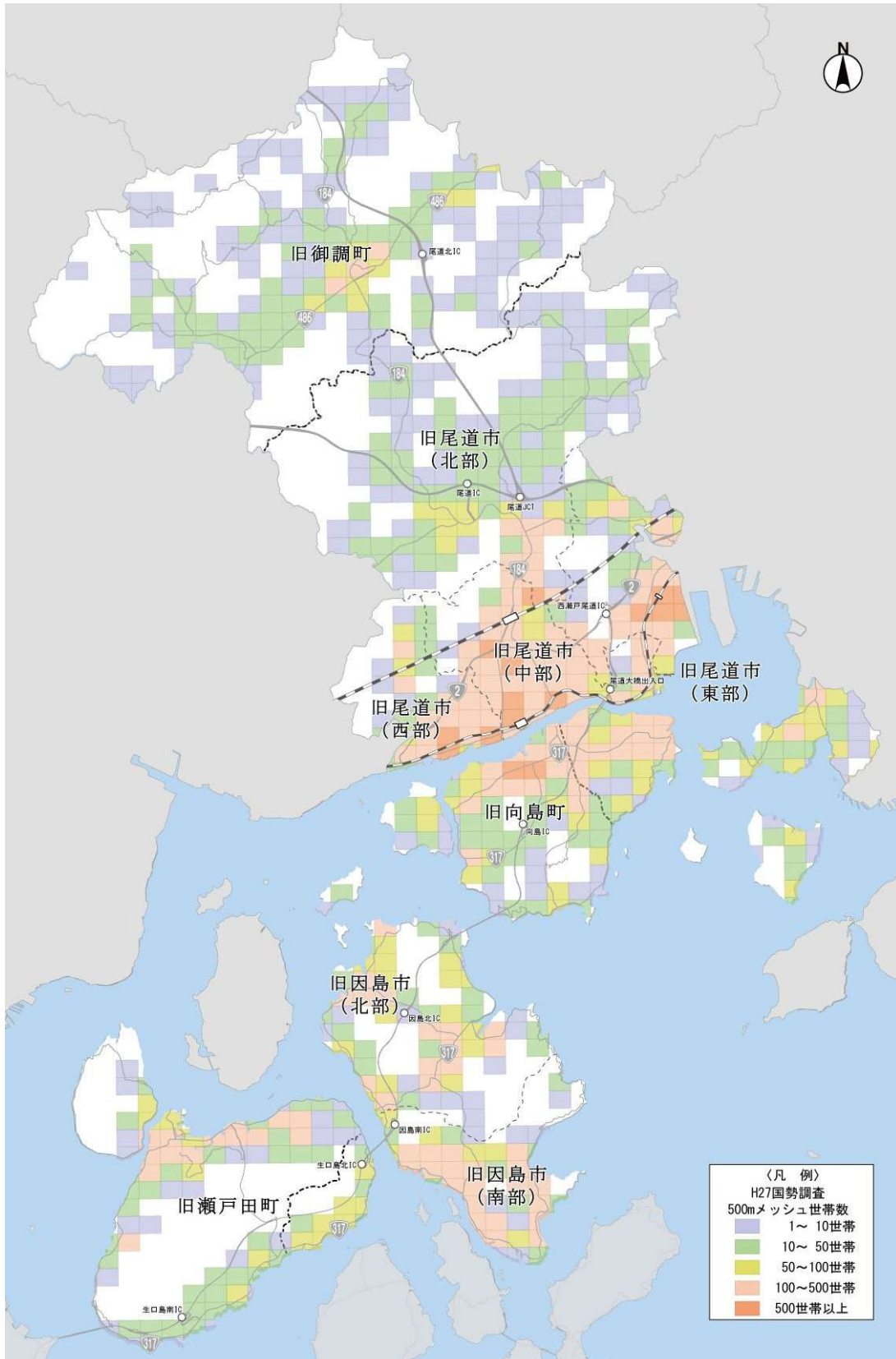
(資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」

※500mメッシュとは、緯度・経度に基づき地域を隙間なく網の目(メッシュ)の区域(約500m四方等)に分けた、それぞれの区域に関するデータ

▲ 500mメッシュによる人口分布

④ 世帯分布

500mメッシュによる世帯分布をみると、人口分布と同様の傾向にありますが、世帯が多く分布する区域は人口分布に比べて、やや広範囲に広がっています。

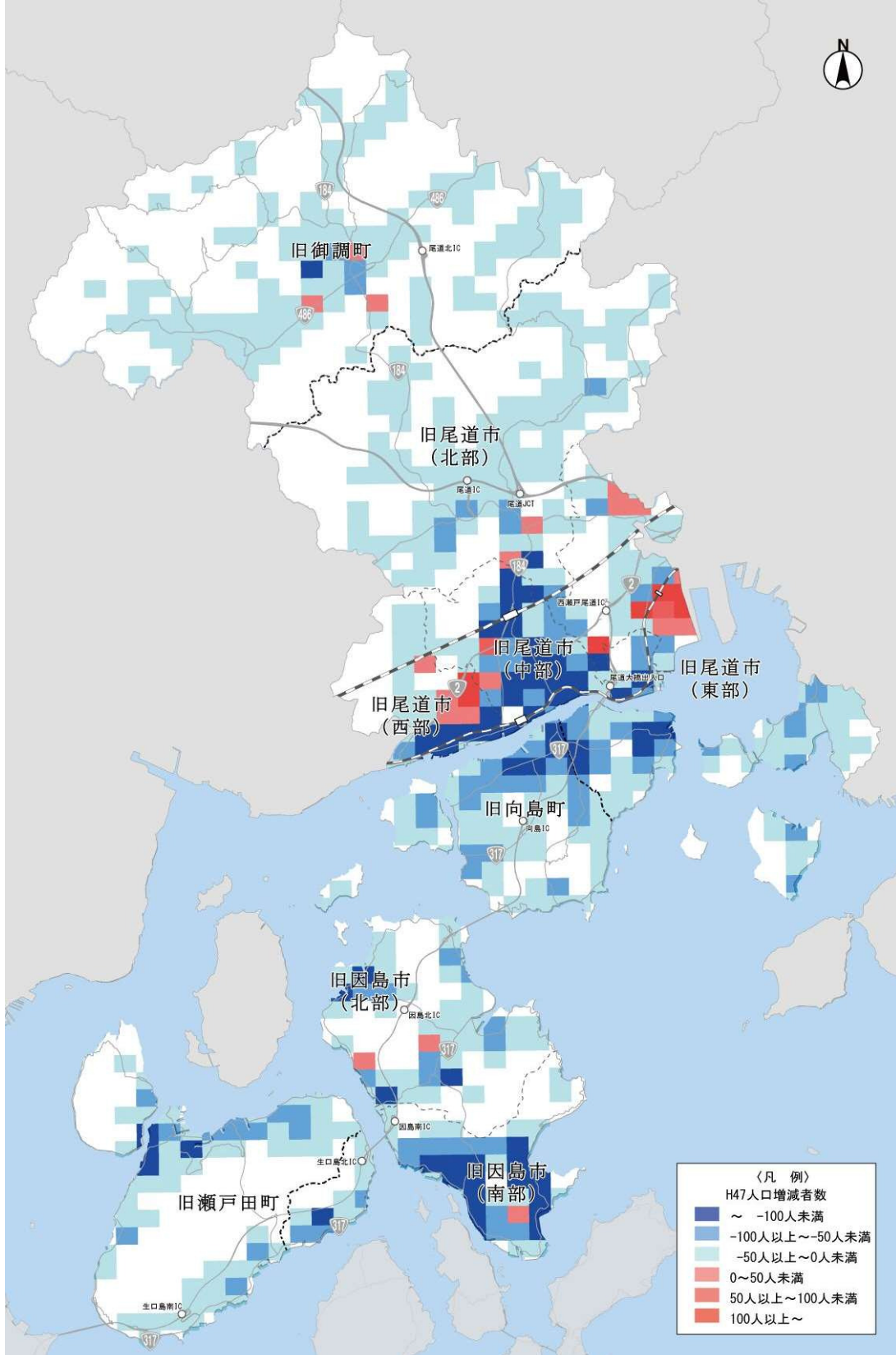


(資料) 総務省「平成27年国勢調査」

▲ 500mメッシュによる世帯分布

⑤ 将来の人口増減予測

平成 27 年と比較した平成 47 年の人口増減予測では、旧尾道市東部の JR 東尾道駅周辺や、旧尾道市西部の平原団地周辺などの一部地域では、人口が増加することが予測されています。旧尾道市中部・西部、旧向島町の尾道水道周辺や旧因島市南部においては、人口減少が進むと予測されています。



※国勢調査の結果をもとに、「尾道市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の独自推計を踏まえ算出

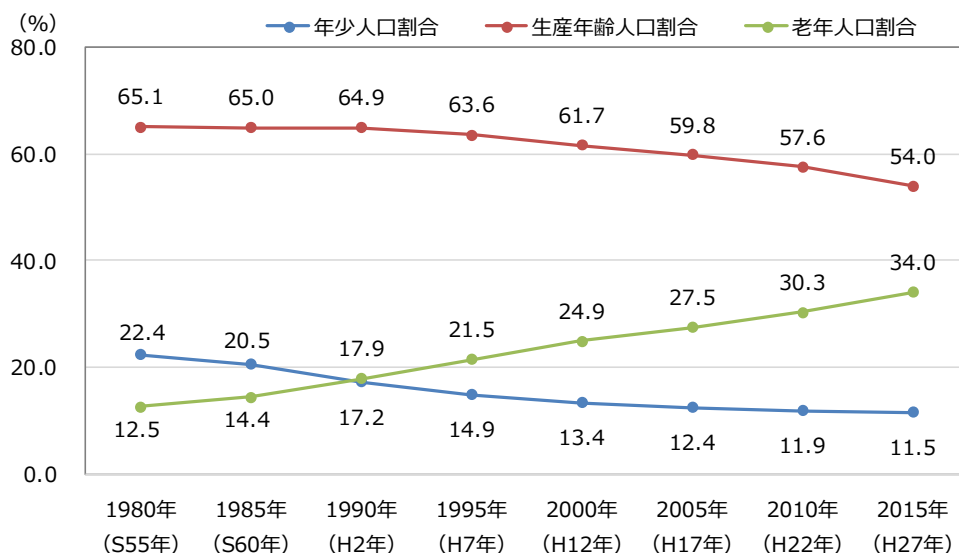
▲ 平成 27 年と比較した平成 47 年の人口増減予測

3) 年齢別人口構成

① 年齢3区分別の人口割合の推移

年齢3区分別の人口割合の推移をみると、年少人口割合、生産年齢人口割合ともに減少傾向にある一方で、老年人口割合は増加しています。

平成2年には、老年人口割合が年少人口割合を上回り、少子高齢化傾向が顕著になっています。



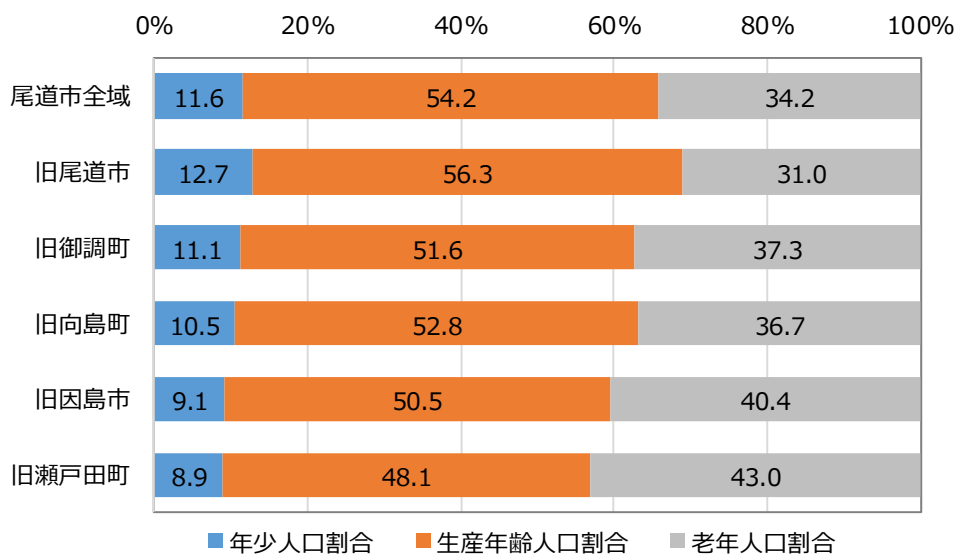
(資料) 総務省「平成27年国勢調査」

▲ 年齢3区分別の人口割合の推移

② 地域別の年齢3区分別の人口割合

旧市町ごとの年齢3区分別の人口割合では、どの地域も年少人口割合が約1割、生産年齢人口割合が約半数、老年人口割合が約3、4割となっています。

旧因島市と旧瀬戸田町では、年少人口割合が他地域と比べてやや低く、老年人口割合が他地域と比べ高い傾向となっています。



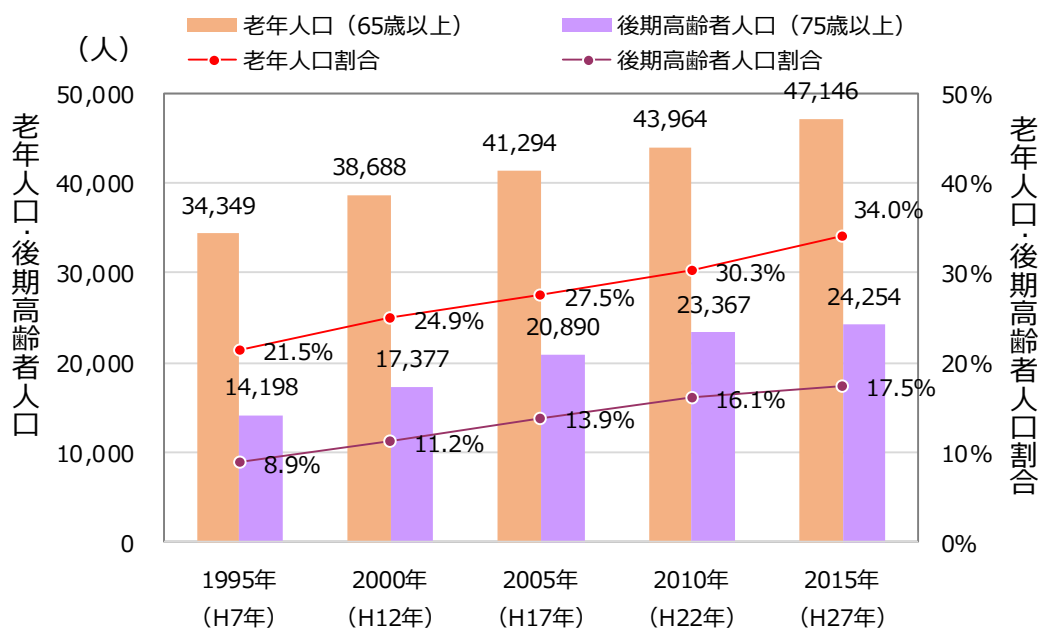
(資料) 総務省「平成27年国勢調査」
※年齢不詳除く

▲ 旧市町ごとの年齢3区分別の人口割合

4) 高齢者の状況

① 老年人口・後期高齢者人口

本市の老年人口割合は 34.0%となっています。また、75 歳以上の後期高齢者の割合も増加しています。

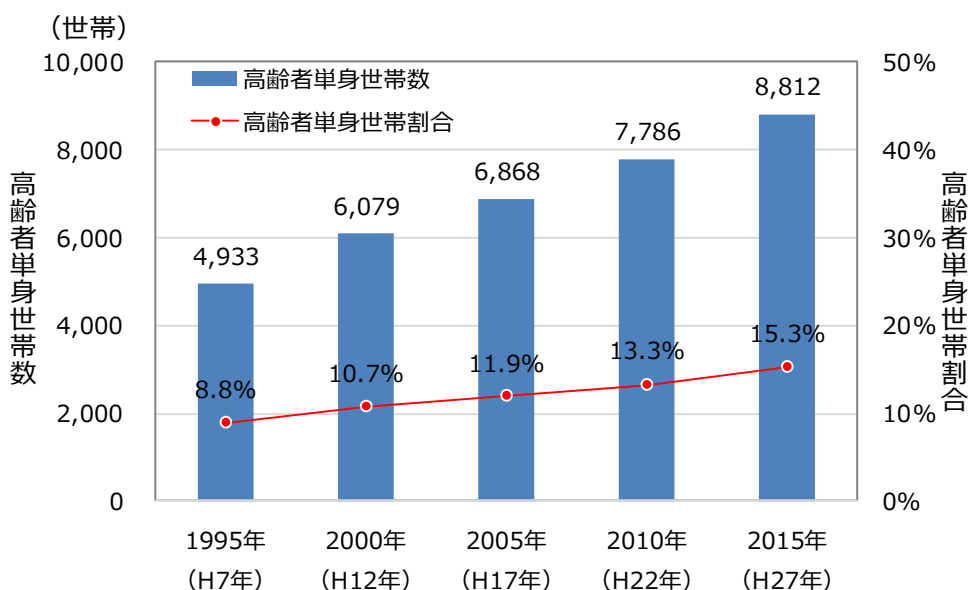


（資料）総務省「平成 27 年国勢調査」

▲ 老年人口・後期高齢者人口と割合の推移

② 高齢者単身世帯

先の整理（15 頁）の通り、全世帯数は平成 22 年以降減少傾向に転じましたが、高齢者単身世帯数・世帯割合はともに増加しており、今後、地域公共交通を必要とされる方の割合が高くなることが予想されます。

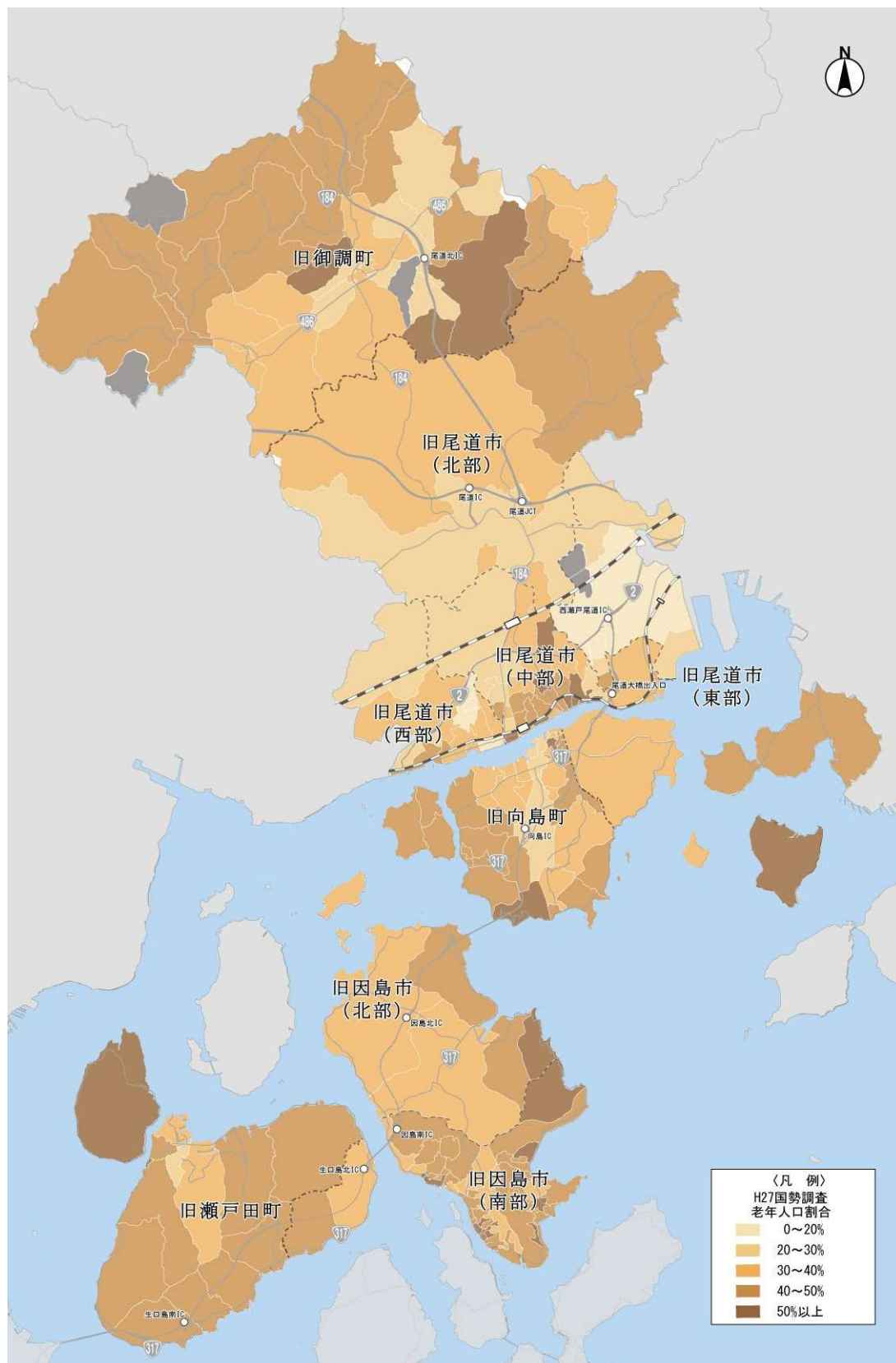


（資料）総務省「平成 27 年国勢調査」

▲ 高齢者単身世帯数・世帯割合の推移

③ 地域別の老年人口割合

地域別の老年人口割合をみると、旧尾道市中部や旧御調町、旧向島町、旧因島市南部、旧瀬戸田町の一部（高根島）、また百島において老年人口割合が 50%を超えている地域が存在しています。

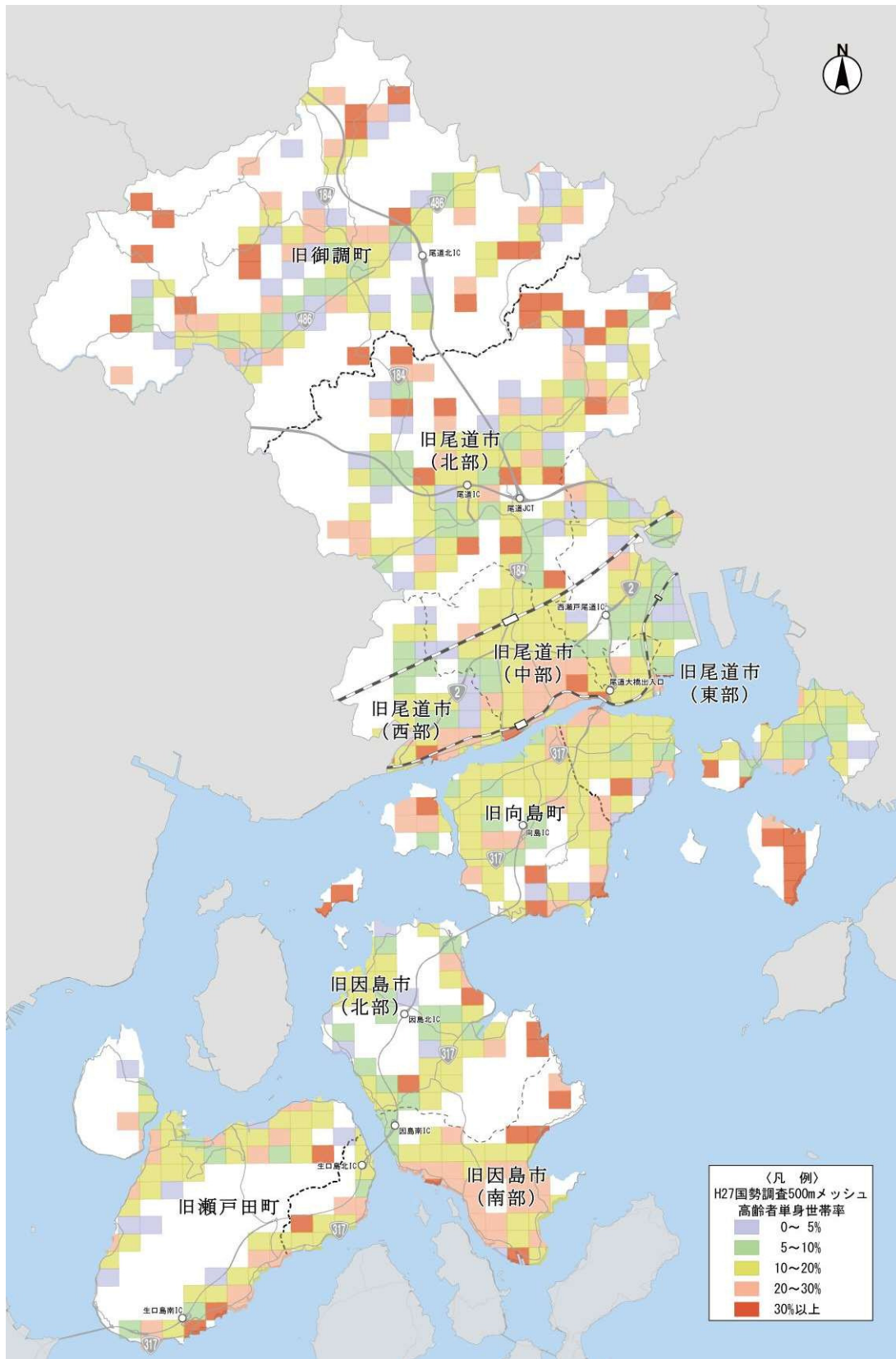


(資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」
※グレー部分はデータ秘匿

▲ 地域別の老年人口割合

④ 高齢者単身世帯率の分布

500mメッシュによる高齢者単身世帯率（全世帯数のうち高齢者単身世帯が占める割合）の分布をみると、割合が高い地域は百島全域のほか、旧御調町や旧尾道市北部に点在しています。



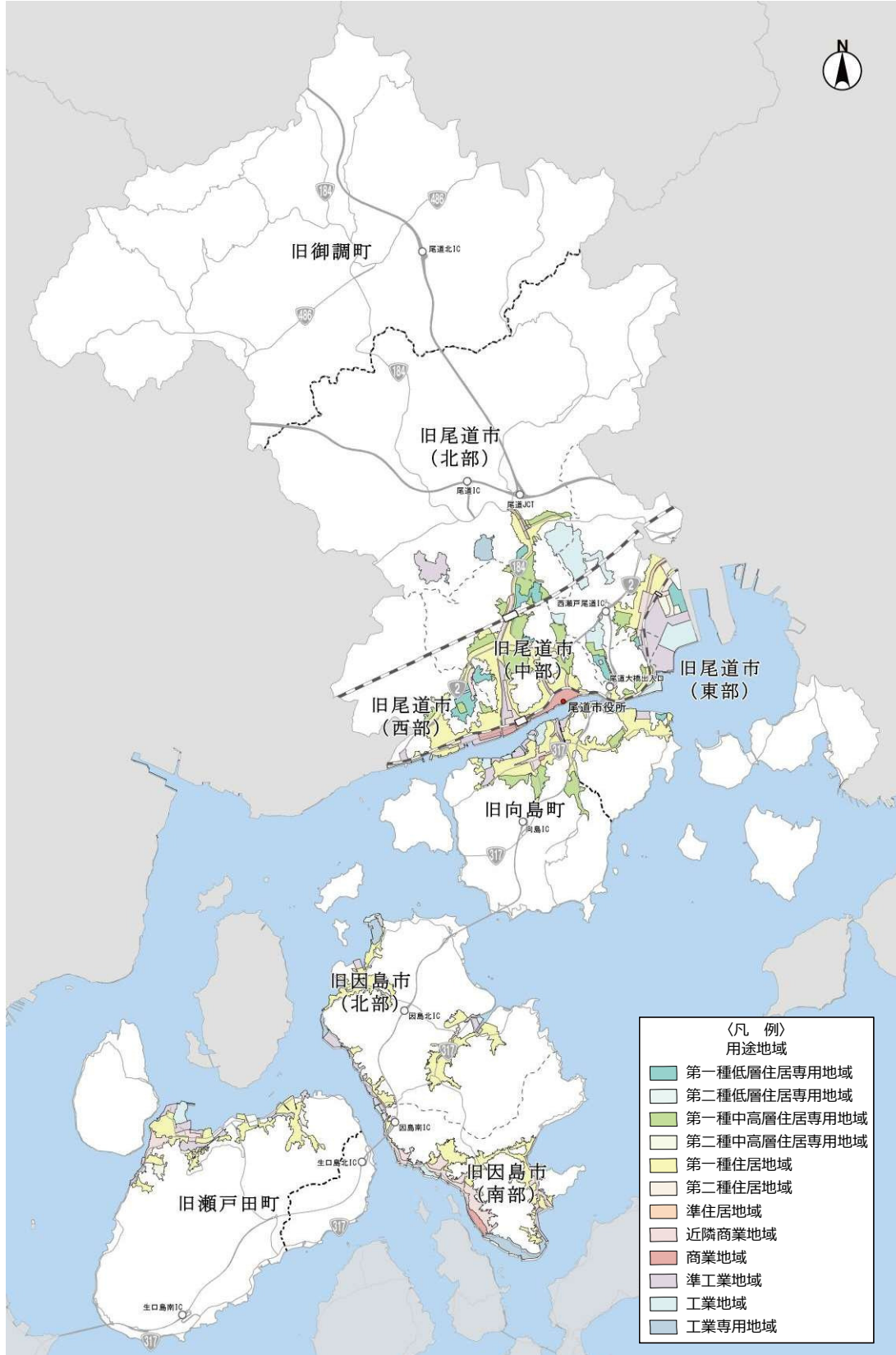
（資料）総務省「平成27年国勢調査」

▲ 500mメッシュによる高齢者単身世帯率の分布

3. 土地利用・道路等の状況

1) 用途地域

本市では、尾道水道沿岸部の旧尾道市街地及び旧因島市南部で都市的土地利用が進む市街地が広がっています。尾道駅周辺から市役所周辺にかけて商業・業務機能が集積し、その周辺部には住宅地が広がっています。島しょ部においては沿岸部を中心として住居系用途が広がっています。



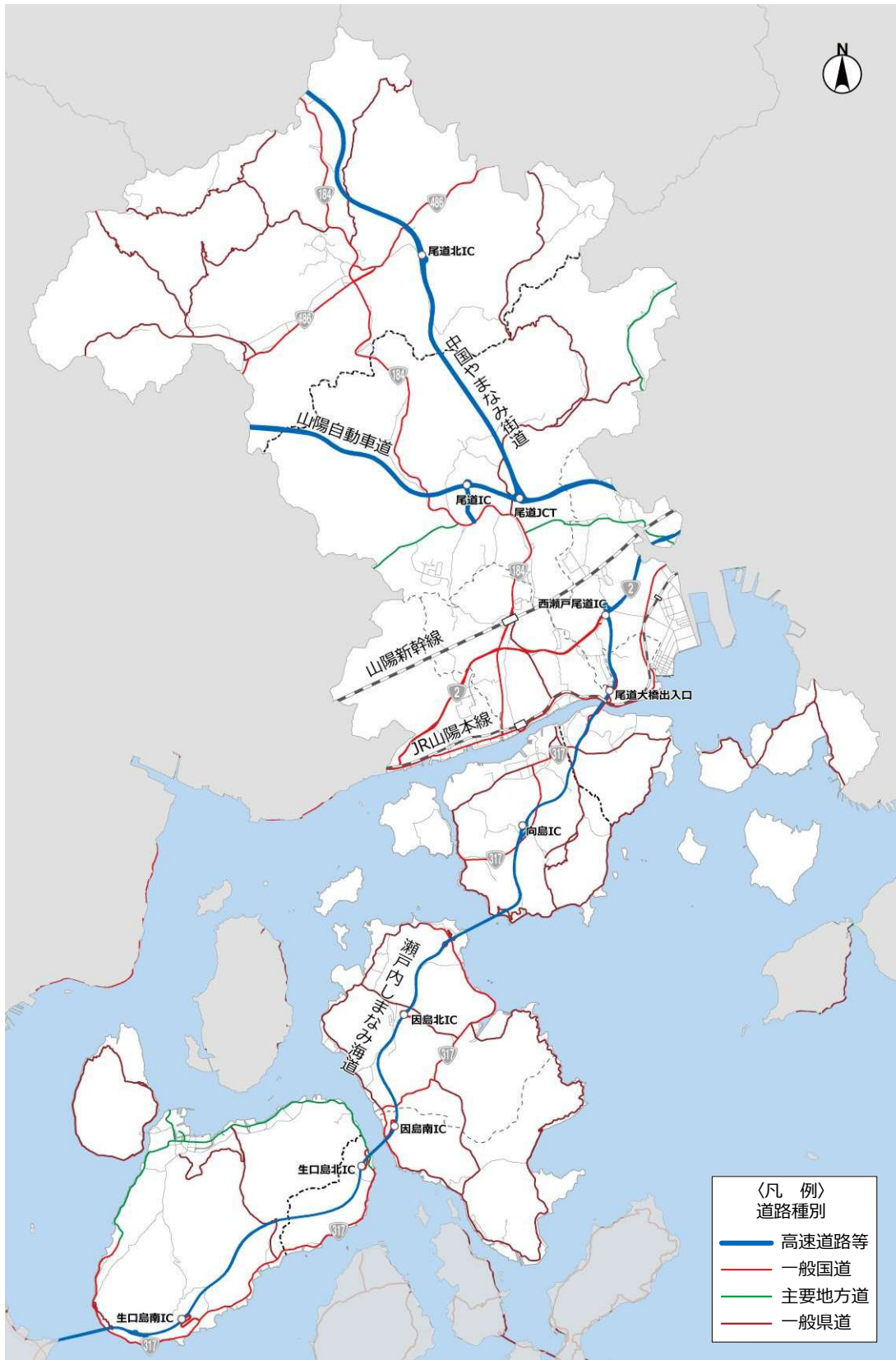
(資料) 国土交通省「国土数値情報」

▲ 用途地域

2) 道路

① 道路ネットワーク

本市の道路ネットワークは、山陽自動車道、中国やまなみ街道、瀬戸内しまなみ海道による高速道路ネットワークを骨格として幹線道路網が整備されています。



▲ 尾道市内の道路ネットワーク

② 自動車交通量

平成 27 年度の全国道路・街路交通情勢調査では、市内の自動車交通量は国道 2 号尾道バイパスの西瀬戸尾道 IC から栗原 IC までの区間が最も多く、51,350 台/日となっています。また、尾道大橋は 25,924 台/日、新尾道大橋は 15,147 台/日となっています。



(資料) 国土交通省「平成 27 年度 全国道路・街路交通情勢調査」

▲ 尾道市内の自動車交通量

3) 目的地となる生活関連施設等の分布

生活関連施設等の分布では、旧尾道市中部・東部・西部に病院や商業施設、公共施設が多く点在しています。また、旧御調町、旧向島町、旧因島市、旧瀬戸田町の各支所周辺にも、病院や商業施設が立地しています。



(資料) 尾道市、全国大型小売店総覧 2017、国土数値情報 等

▲ 生活関連施設等の分布

① 公共施設

各種公共施設は、市役所・各支所を中心に点在していますが、尾道水道周辺地域に比較的集中している状況となっています。



(資料) 尾道市

▲ 公共施設の分布

② 教育施設

教育施設のうち、小学校や中学校は各地域に立地しており、高校は各地域に立地していますが、旧尾道市中部にやや集中している状況となっています。また、尾道大学は旧尾道市西部に立地しています。



(資料) 尾道市
※平成29年4月1日現在

▲ 教育施設の分布

③ 医療施設

医療施設のうち、総合病院は旧向島町と旧瀬戸田町を除く旧市町ごとに立地しています。診療所は各地に点在していますが、旧尾道市中部・西部などに集中している状況となっています。



(資料) 国土交通省「国土数値情報医療機関データ 平成26年」

▲ 医療施設（病院・診療所）の分布

④ 商業施設

商業施設は各地域に立地していますが、旧尾道市中部・東部、旧向島町に各種商業施設が集中している状況となっています。



(資料) 株式会社東洋経済新報社「全国大型小売店総覧 2017」など

▲ 大型小売店の分布

⑤ 企業・工業団地

工業団地は、旧尾道市北部・東部、旧因島市など内陸部や沿岸部に整備されています。企業は旧尾道市中部・東部などに点在しているほか、島しょ部の沿岸部に立地しています。



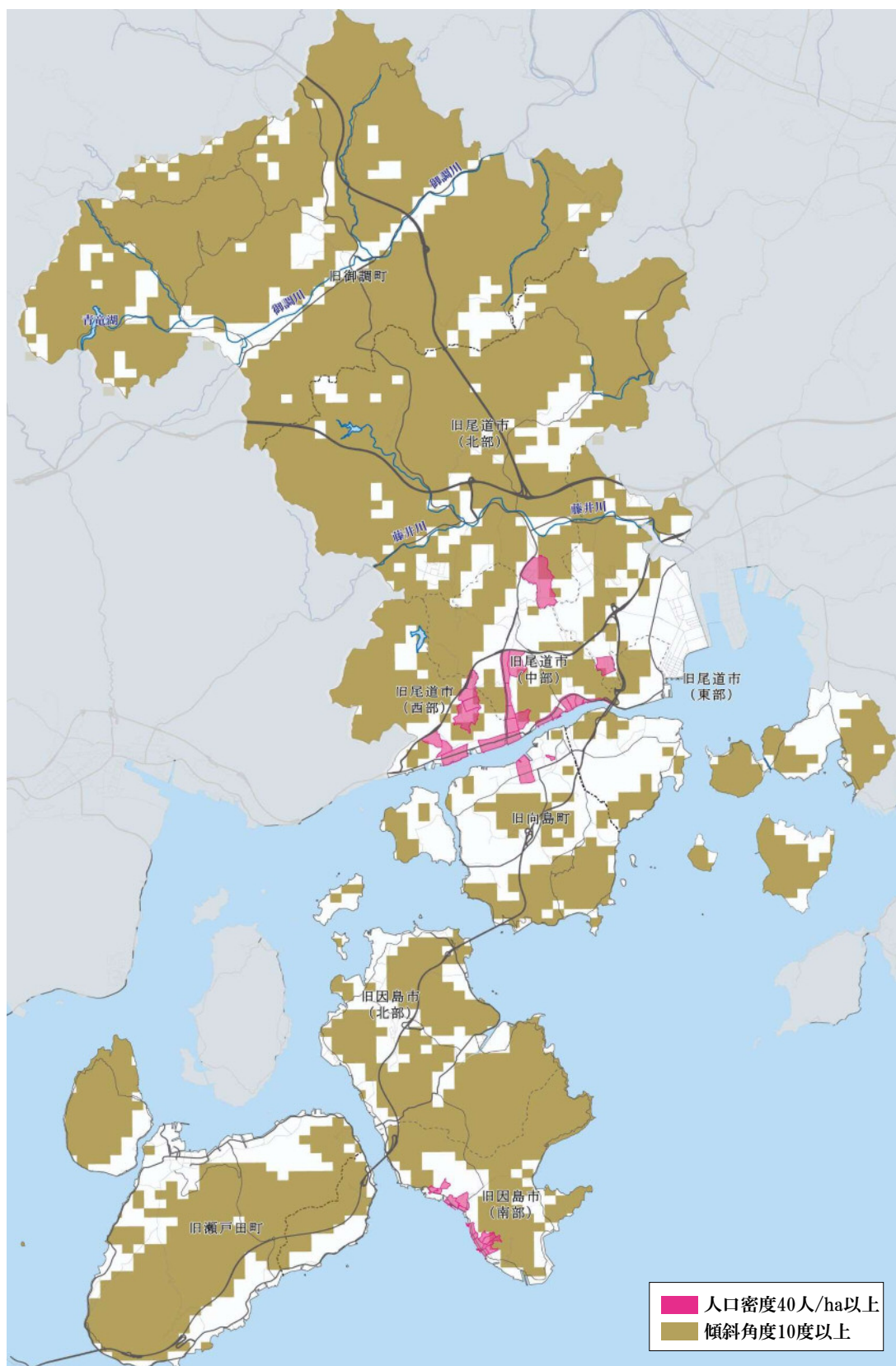
(資料) 尾道市

※尾道市内の事業所で、従業員数100名以上(推定値含む)の企業・事業所
 ※従業員数(推定値含む)は、企業の従業員数を事業所数で割った推定値含む

▲ 企業・事業所と工業団地の分布

4) 市街地と傾斜地の状況

本市では、高齢化の進む住宅団地が点在しています。傾斜地の住宅団地では、高齢化の進展により、これまで以上に移動が困難になる状況が想定されます。



(資料) 国土交通省「国土数値情報」、総務省「平成27年国勢調査」
※傾斜角度10度以上かつ人口密度40人/ha以上の地域と傾斜地の市街地として設定

▲ 市街地と傾斜地の状況

4. 通勤・通学の状況

1) 通勤・通学での移動先

市内に常住し、市内で従業・通学している人は、約5万5千人です。通勤・通学による他市間での移動では福山市との往来が多く、約1万5千人の流動があります。その他、三原市との間でも、約6千人の流動があります。

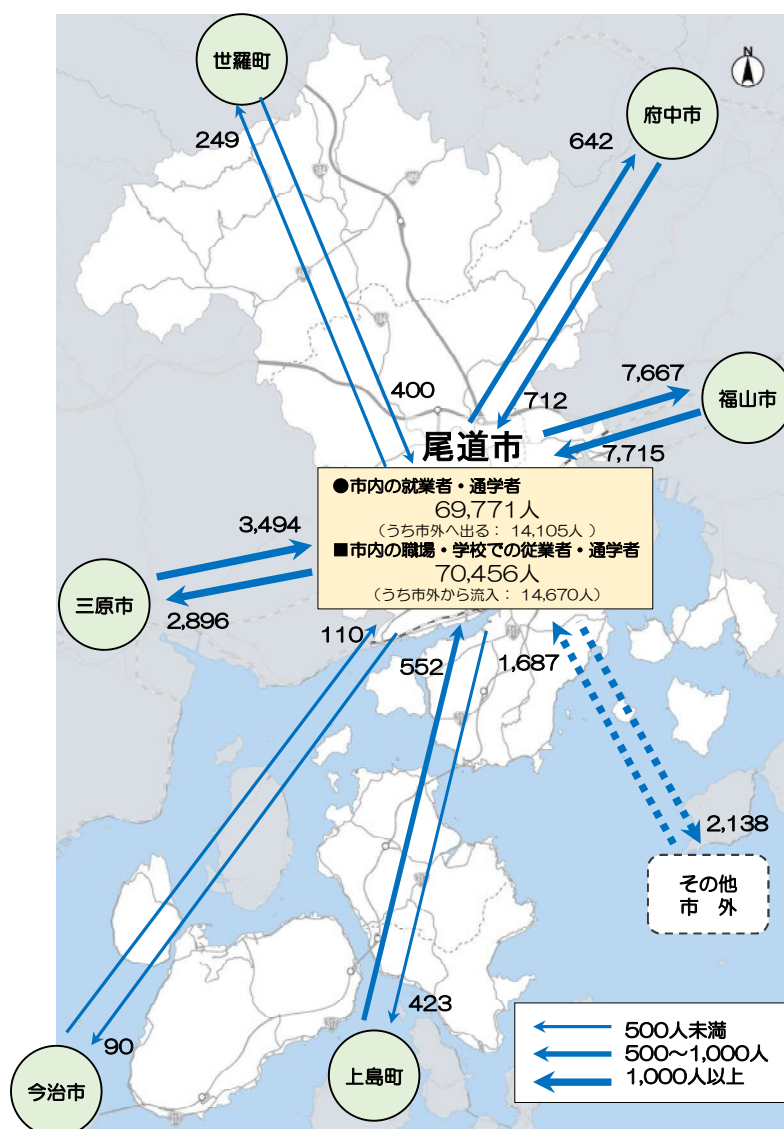
▼ 尾道市常住者の通勤先・通学先

| | 総数(人) (15歳以上) | 就業者(人) (15歳以上) | 通学者(人) (15歳以上) |
|-----------------|------------------|-------------------|-------------------|
| 尾道市に常住する就業者・通学者 | 69,771 | 63,959 | 5,812 |
| うち市内で従業・通学 | 54,882 | 51,196 | 3,686 |
| うち他市町村で従業・通学 | 14,105 | 12,055 | 2,050 |
| 三原市 | 2,896 | 2,529 | 367 |
| 世羅町 | 249 | 248 | 1 |
| 府中市 | 642 | 615 | 27 |
| 福山市 | 7,667 | 6,794 | 873 |
| 今治市 | 90 | 86 | 4 |
| 上島町 | 423 | 345 | 78 |
| その他市外 | 2,138 | 1,438 | 700 |

▼ 尾道市に通勤・通学する者の常住地

| | 総数(人) (15歳以上) | 就業者(人) (15歳以上) | 通学者(人) (15歳以上) |
|--------------|------------------|-------------------|-------------------|
| 尾道市で従業・通学する者 | 70,456 | 65,562 | 4,894 |
| うち市内に常住 | 54,882 | 51,196 | 3,686 |
| うち他市町村に常住 | 14,670 | 13,546 | 1,124 |
| 三原市 | 3,494 | 3,056 | 438 |
| 世羅町 | 400 | 370 | 30 |
| 府中市 | 712 | 676 | 36 |
| 福山市 | 7,715 | 7,410 | 305 |
| 今治市 | 110 | 109 | 1 |
| 上島町 | 552 | 543 | 9 |
| その他市外 | 1,687 | 1,382 | 305 |

(資料) 総務省「平成27年国勢調査」



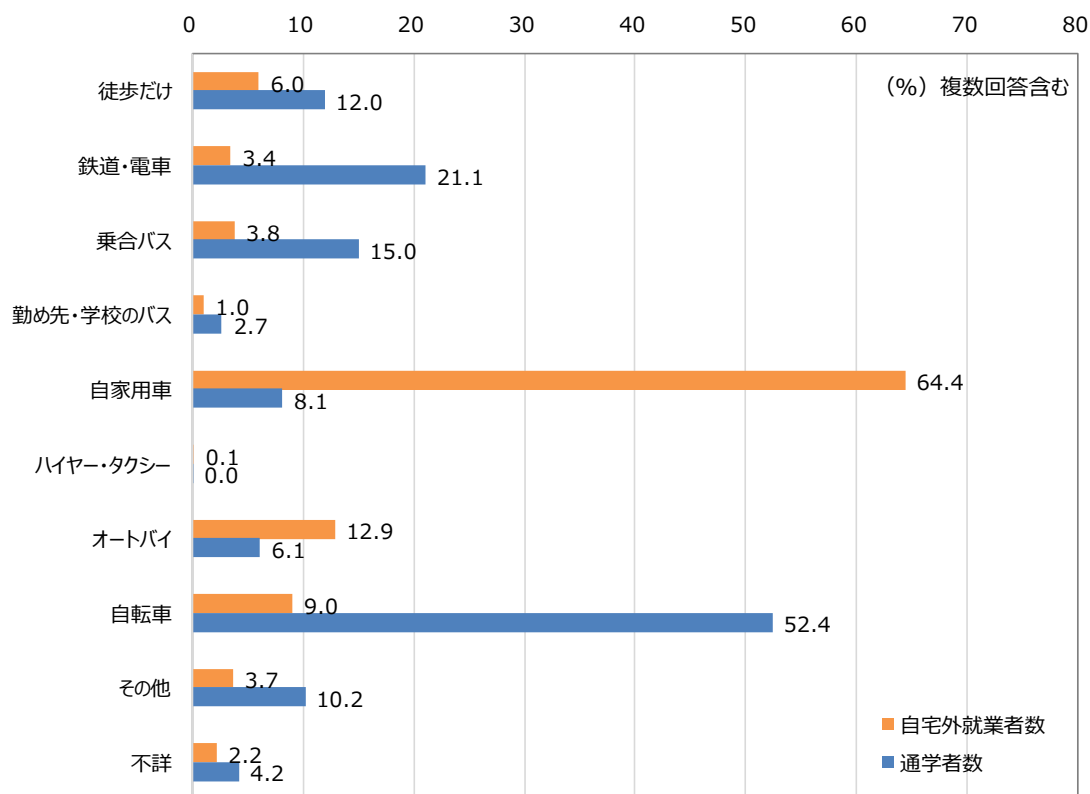
(資料) 総務省「平成27年国勢調査」

▲ 通勤・通学での移動の状況

2) 通勤・通学時の利用交通手段

通勤・通学時の利用交通手段は、通勤においては自家用車の利用が6割以上を占め、通学においては自転車の利用が5割を超えています。

地域公共交通機関である鉄道・電車、乗合バスの利用は、通勤においては5%未満になっていますが、通学においては2割前後の方が利用されています。



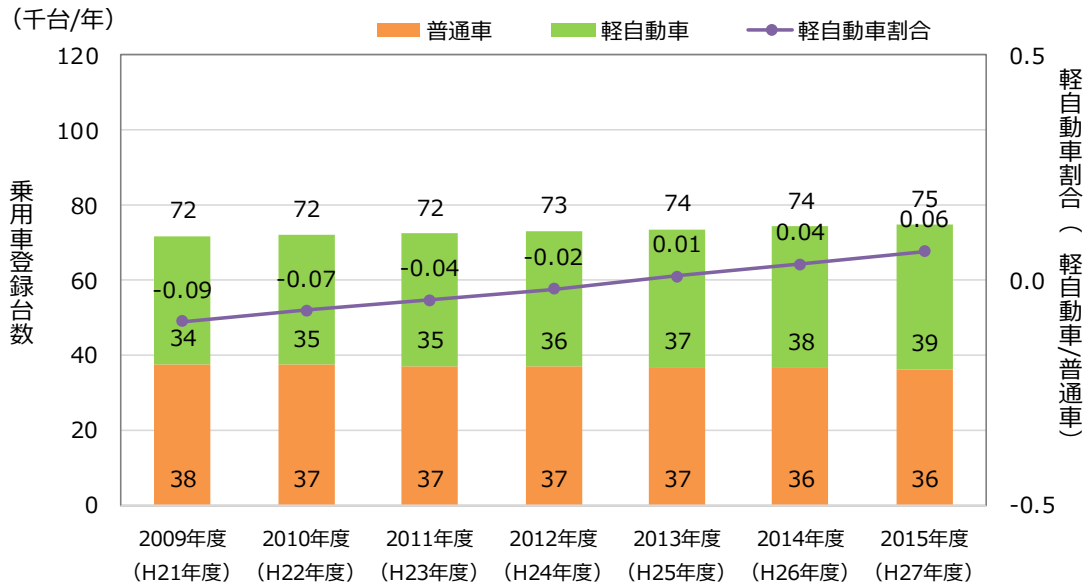
(資料) 総務省「平成22年国勢調査」
※通勤・通学時の交通手段調査は、10年に1回の
国勢調査の大規模調査時に実施されています。

▲ 通勤・通学での利用交通手段

5. 自動車の登録状況・運転免許申請取消件数

1) 自動車の登録状況

本市の乗用車登録台数と軽自動車割合の推移をみると、普通車と軽自動車を合わせた乗用車登録台数は年々増加しています。



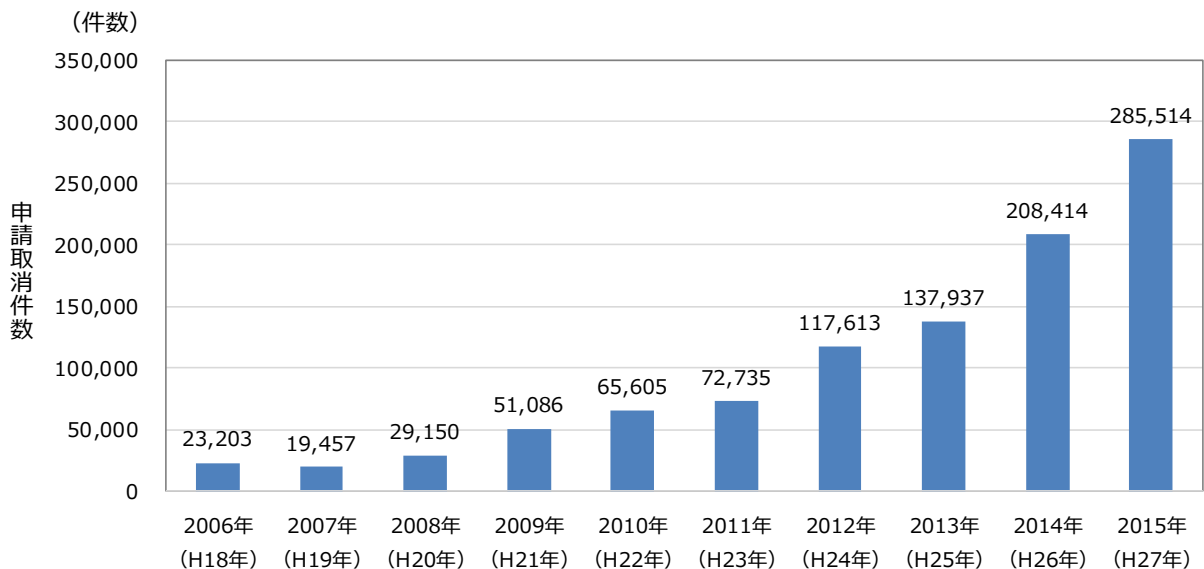
(資料) 尾道市「統計おのみち」

▲ 尾道市内の乗用車登録台数と軽自動車割合の推移

2) 運転免許申請取消件数

① 全国の状況

運転免許申請取消件数は年々増加傾向にあり、平成 27 年度には 285,514 件となっています。平成 29 年 3 月には改正道路交通法が施行され、今後も運転免許申請取消件数は増加していくことが予想されます。



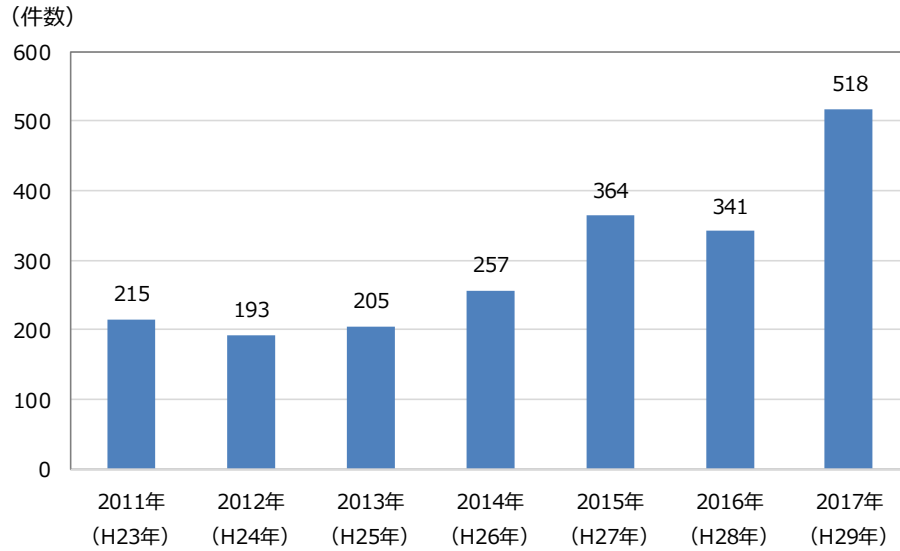
(資料) 警察庁「運転免許統計平成 27 年版」

▲ 全国の運転免許申請取消件数

② 本市の状況

■ 運転免許申請取消件数の推移

本市の運転免許申請取消件数の推移をみると、平成24年以降、増加傾向となっています。



(資料) 広島県警

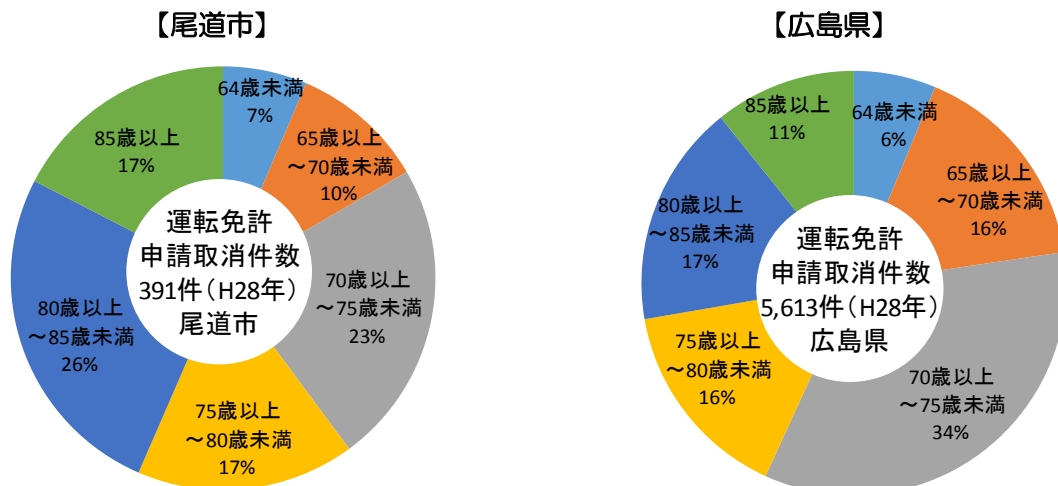
▲ 尾道市の運転免許申請取消件数

■ 年代別割合

本市の運転免許申請取消者の年代別割合をみると、80歳以上85歳未満の年代が最も多く、約3割を占めています。また、70歳以上が全体の8割を占めています。

広島県全体では、70歳以上75歳未満が3割以上で最も多い状況です。

本市においては、運転免許申請取消者の年齢が、県全体と比較してやや高齢となっています。



(資料) 尾道市
※尾道警察管外を含む

(資料) 警察庁「運転免許統計」

▲ 運転免許申請取消者の年代別割合

6. 観光の状況

1) 観光地の配置状況

市内の観光客の来訪状況を見ると、旧尾道市の観光地への来訪が最も多くなっています。近年では、しまなみ海道サイクリングでの旧向島町、旧因島市、旧瀬戸田町への来訪者も多くなっている状況です。



▲ 主要観光地の分布

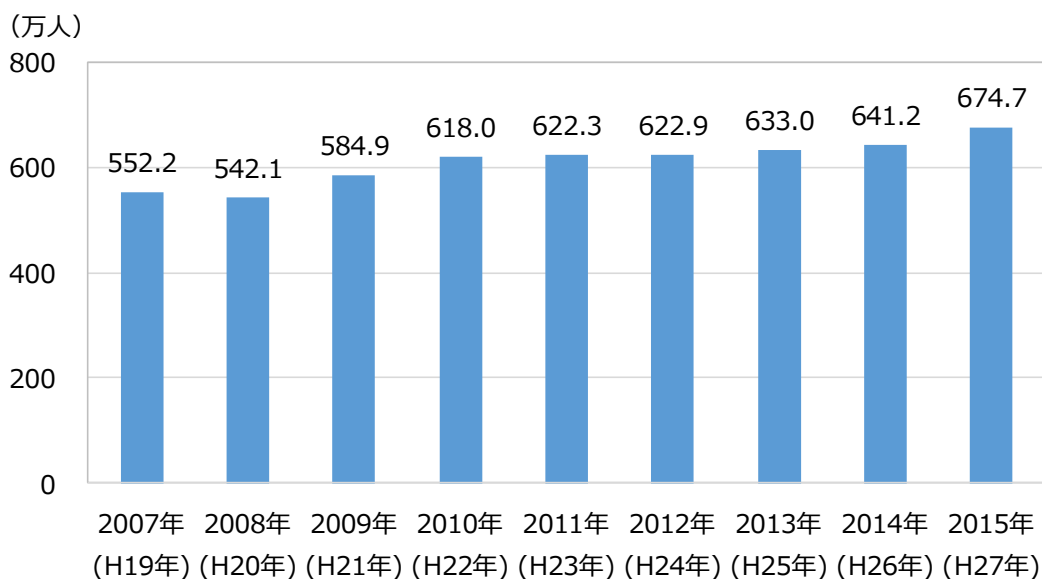
▲ 尾道市内の来訪場所 (複数回答)

(資料) 平成 26 年尾道市観光動態調査業務報告書

2) 観光客の状況

① 総観光客数

市内の総観光客数は増加傾向にあり、平成 27 年には約 675 万人となっています。

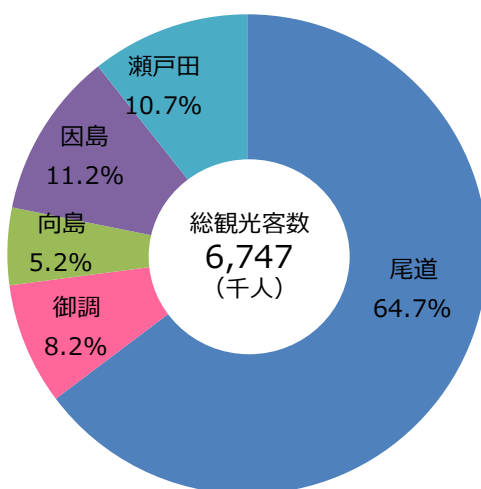


(資料) 広島県「H27 年広島県観光客数の動向」

▲ 尾道市内の総観光客数の変化

② 着地別割合

観光客の着地別割合では、尾道地域内への来訪が約 6 割と、市内全体の過半数を占めています。

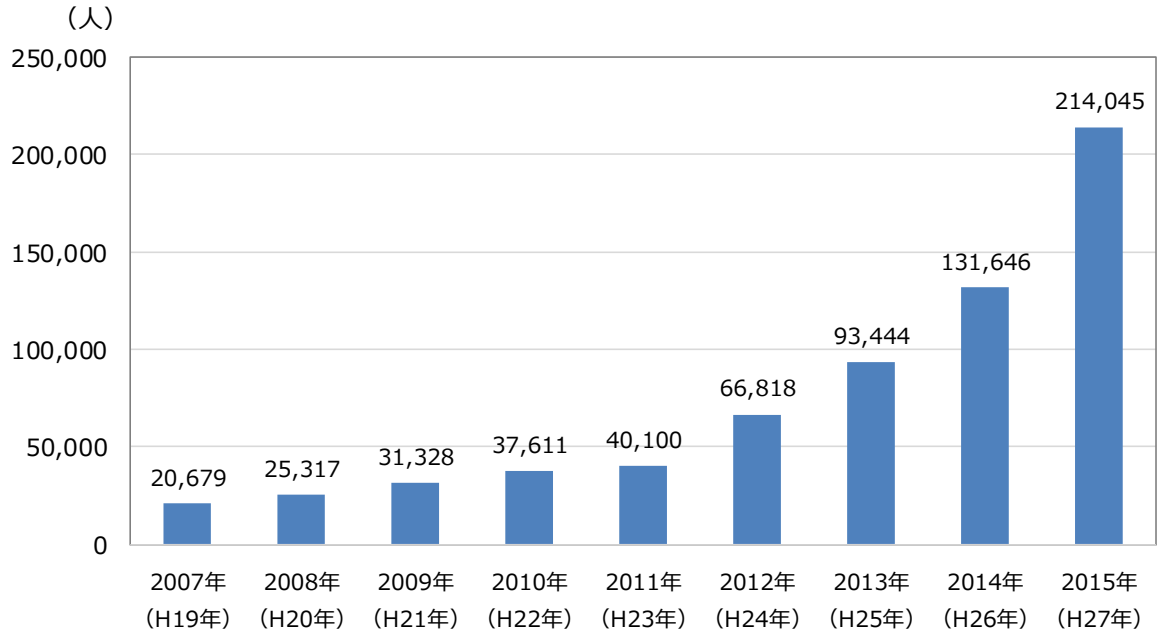


(資料) 尾道市「H27 年広島県観光客統計調査票」

▲ 観光客の着地別割合

③ 外国人観光客数

本市を訪れる海外からの観光客は、近年増加傾向で、平成 27 年には約 21 万人となっており、過去最高となっています。

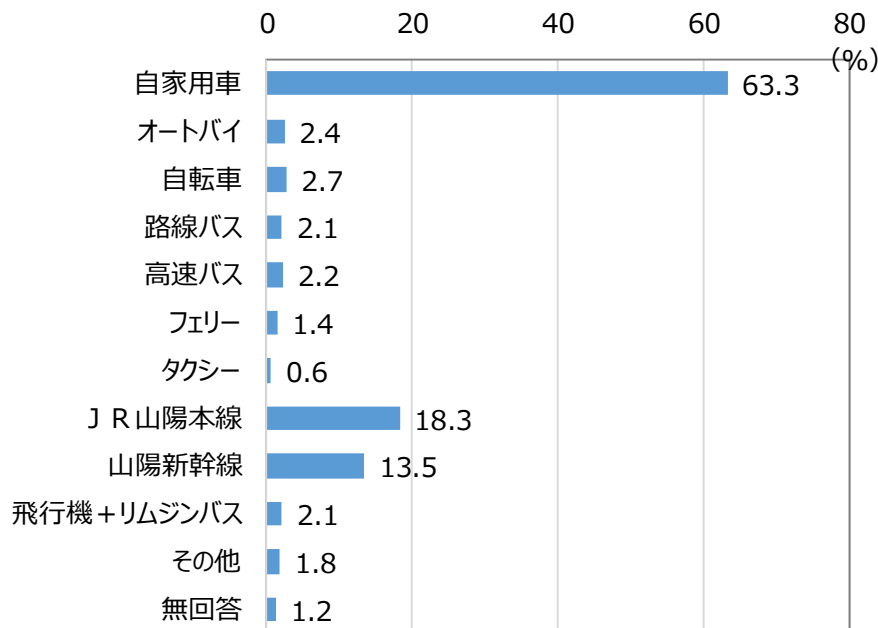


(資料) 尾道市

▲ 尾道市への外国人観光客数

④ 利用交通手段

観光客の尾道までの主な交通手段は、自家用車が市全体で 6 割以上となっています。鉄道 (JR 山陽本線・山陽新幹線) を利用する来訪者は、全体の約 3 割程度となっています。



(資料) 平成 26 年尾道市観光動態調査業務報告書

▲ 観光客の尾道までの主な交通手段